

伊豆市

総合防災訓練

REPORT



毎年9月1日は「防災の日」。静岡県では「東海地震」を想定して、県下一斉に、地震予知の対応から発生の対応に至る、一連の訓練が行われました。5日(日)には、市内各地の自主防災組織での防災訓練も行われました。また、土肥地区では県による「伊豆市会場型総合防災訓練」が土肥小学校を会場に行われました。訓練では被災者を医師が程度別に分類し、優先順位を決定する「トリアージ訓練」が行われ、重症と判断された患者をドクターヘリで病院まで輸送しました。会場には地区の皆さんをはじめ、約五百人の方が訓練に参加し、起震車で地震の揺れを体験するなど、子どもから大人まで災害を身近に体験した一日でした。



地震は必ず来ます

日本列島の太平洋岸では、プレートとの潜り込みによる地震が一定の周期で繰り返し起こっています。特に東海地方では百五十年周期で同じ場所と同じ規模の地震が発生しています。前回の大地震(一八五四年・安政東海地震)からすでに百五

十年が経過しており、いつ発生してもおかしくないと思われ、予想されています。地震は必ず起こります。そのためにも、日ごろからの備えが必要となります。

家屋の倒壊を防ぐために

平成七年の阪神・淡路大震災で亡くなった方の八割以上が、建物の倒壊などによる圧死・窒息死によつて、その尊い命が奪われました。特に昭和56年以前の旧建築基準で建てられた木造住宅に大きな被害がでました。

このような家屋は市内にも多く見られます。地震からあなたの大切な人、家族の命を守るために、わが家の耐震性を知り、必要な備えをすることが大切です。

市では旧基準によつて建築された木造建築の専門家無料耐震診断(簡易)を行っています。この機会に耐震診断を受け、必要があれば、住宅の耐震補強などを行いましょ。詳しくは、次ページの無料耐震診断案

内をご覧ください。

家具の転倒防止を

どんなに丈夫な家に住んでいても、地震の時に家具が倒れてきたり、物が落ちたりするような状況では安心できません。先の大震災でも家具に押し潰されて亡くなる方も多くいました。たんすや家電、食器棚などの家具の固定や、窓ガラスが割れて飛び散らないように、飛散防止フィルムなどを張りましょ。

避難経路の確認

災害時は津波や土砂崩れなどが発生する恐れもあります。そこで、災害時ほどの経路を通つて安全に避難場所までたどり着けるのか、ハザードマップなどをチェックして避難経路の確認をしておきましょ。普段から災害が発生のイメージトレーニングができていれば、実際の災害時にも的確な判断・対応ができます。